



食のフェスティバル(10月16日)
 今年で3回目となる狭山台のおいしいんぼ祭り。さわやかな秋空のもと、13の模擬店の前には多くの方が列を作り、食の楽しさを味わいました。



灯の川201α(10月10日)
 間伐材と竹を使った約1,200本のろうそくが、入間川の岸边に灯され、あたりは幻想的な雰囲気。音楽演奏もイベントを盛り上げました。



狭山の秋は おもしろさいっぱい



いりその里のお茶まつり(10月17日)
 雨で1週間順延となり、会場を縮小しての開催でしたが、踊りや楽器演奏、模擬店、フリーマーケット、昔遊びなどで、世代を超えて交流を深めました。



奥富かかし祭(10月24日 ~ 11月3日)
 市内で唯一、田園風景が残る奥富地区を象徴するイベント。郷土芸能や模擬店とともに、75体のかかしがたくさんのお客様をお迎えしました。



10月末から市内で販売
 さといもコロッケ おいしいよ

狭山市商工祭(10月24日)
 狭山市は、各種産業のバランスが取れたまちです。訪れた皆さんには、改めて狭山の元気を実感していただけるにぎやかなイベントになりました。



私の宝物 ...

航空技術の発展にロマンを感じて

小・中学校のときの先生がたの中に零戦の翼設計者や元特攻隊員だった方がいて、その搭乗体験や機体のメカニズムを教わり、航空機に強く引き付けられました。初めは写真収集や



太田良一さん
(北入曾在住)

の後、興味は航空発達史の分野に向けられ、航空技術の進歩・発展の足跡を歴史的背景を織り交ぜながら独自に調査・研究し、データベース化しています。これが私の宝物です。

現在は、38年勤めた会社を退職し、所沢航空発祥記念館で子ども達に飛行原理などを教える説明員ボランティアをしています。私が子どもものときに感じた航空機への情熱と憧れを今の子ども達にも感じて欲しい、そして、飛行への感動と驚き、「なぜ・どうして」と考えること



米国・USAF空軍博物館に展示の紫電改。
資料集めに海外にも足を運びます

の大切さを伝えていければと思っています。

今回は北入曾にお住まいの方をご紹介します。



子育て支援広場に集まった親子とスタッフ

私たち水押自治会では、毎月第1水曜日の午前10時から、自治会主催の子育て支援広場を開催しています。
この日は、自治会集会所に0歳から3歳までの乳幼児が大勢集まり、自治会役員、民生委員・児童委員、ボランティアが温かくお迎えします。子ども達は、スタッフにだっこしてもらったり、お母さんと一緒に遊びに夢中になったりと、2時間のにぎやかで楽しい時間があつという間に過ぎていきます。
お子さんの成長と安全・安心な遊び場、お母さんの友だちづくりの場として、今後も交流を図りながら、地域の発展に貢献していきます。

水押自治会(入曽地区)

姉妹・友好都市の見てある記

龍井茶 (ロンジンチャ)

中華人民共和国杭州市



狭山市の狭山茶と同様、杭州市は、龍井茶と呼ばれる有名なお茶の産地です。



龍井茶は、中国の十大名茶に選ばれている高級な緑茶で、千年以上の歴史を誇り、西湖の西南に位置する龍井村で作っていたことからこの名前がついたといわれています。特に、西湖周辺の龍井茶は「西湖龍井」と呼ばれ、山の斜面に作られた茶畑で栽培されています。

茶葉の形、お茶を入れたときの色、香り、味が絶品であることから「四絶」と称され、清代には皇帝に献上されていました。

公式モバイルサイトで市内の史跡を巡るコースを多数紹介しています。ぜひご覧ください。

狭山の史跡 堀兼之井

所在地 堀兼2220番地(堀兼神社境内)



「ほりかねの井」の一つと考えられ、事実なら、年代は平安時代までさかのぼりますが、江戸後期の地誌に、同様の井戸跡は各地に残り、どれが実跡かは定めがたいとあります。後世の文人にもてはやされるようになったのは、宝永5年(1708)に川越藩主の秋元喬知が、「ほりかねの井」の所在をこの凹形の地としたこと、堀兼は掘り難かった意味であると刻んだ石碑を井戸の傍らに建ててからと考えられます。

直径7.2m、深さ1.9mの井戸の中央に石組の井桁があります。和歌に詠まれた